

令和3年度 事業報告

第二青陽園

計 画	実施状況
1 事業 (1) 特別養護老人ホームの経営 第二青陽園 定員90人 (2) 老人短期入所事業の経営 第二青陽園 定員10人	計画どおり
2 経営方針	計画どおり
3 行動指針	計画どおり
4 収支目標 特別養護老人ホームの長期入所年間利用率を98%、短期入所年間利用率を98%とする。	長期入所利用率 97.4 % 短期入所利用率 72.2 % 合計稼働率 94.8 % 要介護度 入所 3.8 短期 2.7 平均年齢 入所 89.1歳 短期 87.5歳
5 実施内容	
(1) 施設の安心・安全な運営	
① 新型コロナウイルス感染症等防止対策の徹底 ・「感染症及び食中毒の予防及びまん延防止のための指針」に基づき、感染防止委員会を定例開催するとともに感染症管理体制を向上させていく。 ・新型コロナウイルス感染症の防止対策として、入所前の利用者にPCR検査を実施する。 ・感染症予防に関する実践的な研修を定期的実施する。 ・最新情報の収集に努め、対策マニュアル等の見直しを実施する。	① 感染防止委員会及び日常の業務を通じて、手洗い、消毒、マスク、手袋などの日常ケアでの感染対策を行った。また、職員のPCR検査を5月から3月の間に44回実施した。 ・入所前の利用者にPCR検査を2回実施し、入所時は1階ユニットにおいて健康観察期間を設けるなどの感染症対策を講じながら、入所の受入れを行った。 ・感染症対策に関する研修を、年間の教育研修計画に組み入れて実施した。 ・八王子市や厚生労働省などから感染症関係の情報を収集して、感染対策マニュアルや業務継続計画の見直しに取り組んだ。
② 社会的な信頼の確保と向上 ・第三者委員参加のもと、苦情防止解決委員会を開催し、苦情や意見に対し誠意をもって対応する。 ・研修等の実施を通じ、適切な個人情報管理の意識向上を図る。 ・第三者評価の受審結果をもとに、利用者サービスの向上に繋げる。 ・ユニットケアの充実・向上を図るためユニットケア推進委員会の取組みを行う。	② 感染対策関係から第三者委員参加の苦情防止解決委員会は開催しなかったが、ご家族からの意見や苦情に対し誠意をもって対応した。また、ホームページに利用者活動の様子を掲載して家族にお知らせし、家族の安心につながるよう努めた。 ・個人情報保護やプライバシー保護、サービス規定に関する研修を実施した。 ・第三者評価を受審して良好な結果を得ることができ、利用者サービスの向上につなげた。 ・ユニットケア推進委員会を定期的開催してユニットケアの充実・向上に取り組んだ。

<p>③ 医療体制の維持</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理医、嘱託医の定期診察により、慢性疾患等の管理及び認知症等に対し、適切な対応を行う。 ・看取り期や急変時の対応充実として、夜間を含めた医師、看護師のオンコール体制のもと介護員と連携し医療対応を提供していく。 ・内科、精神科、泌尿器科、皮膚科医師の定期診察を実施し、利用者の医療ニーズによりきめ細やかに対応する。 	<p>③ 管理医、嘱託医の定期診察により、慢性疾患等の管理及び認知症等への対応を行った。また、利用者と職員への新型コロナワクチン接種を管理医にて年3回行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看取り期や急変時は、夜間を含めた医師と看護師のオンコール体制のもと、随時、家族に状態経過を連絡しながら対応を行った。 ・内科、精神科、泌尿器科、皮膚科医師による定期診察を実施して、利用者の医療ニーズによりきめ細かく対応できるようにした。
<p>④ 防犯・防災体制の整備、見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業継続計画(BCP)に沿って訓練の実施により防災体制の充実を図る。 ・防火管理委員会のもと定期的に防災訓練を実施し防災意識の向上を図り、防災設備、避難経路、避難手順等の周知徹底を図る。 ・消防設備の定期点検を実施するとともに防火管理者による防火設備及び避難経路の確認・管理を行う。 ・定期的に防犯訓練を実施し、防犯対策、設備等の点検・見直しの検討を行う。 	<p>④ 事業継続計画(BCP)に沿った訓練を実施して、自然災害発生時や新型コロナ発生時に対応できる体制を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練を実施して、防災意識の向上を図り、防災設備と避難経路の確認、通報と避難手順の周知徹底を図った。 ・業者による消防設備の定期点検を実施するとともに、防火管理者による防火設備や避難経路の点検などを実施した。 ・防犯対策として設備の点検と戸締りの点検、夜間の施設内外の巡回による点検を行い、また、防犯訓練を実施した。
<p>⑤ 事故の防止</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「事故発生防止のための指針」に基づき、事故防止委員会を定期開催し、ヒヤリハット及び事故報告書を分析し事故防止体制を強化する。 ・園内でのオンライン研修を実施し、事故防止対策の充実を図る。 	<p>⑤ 事故防止委員会及び日常のケアを通じて、ヒヤリハット報告・事故報告を分析して事故防止対策を図った。</p> <p>また、入所相談時に、家族に対して転倒や転落などのリスクについて説明し、事前に家族理解を得るように取り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事故防止対策関係の研修を教育研修計画に組み入れて実施した。
<p>⑥ 虐待の防止及び早期発見・拘束ゼロの徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> ・尊厳保持・虐待防止・身体拘束防止についての委員会を定期開催し、身体拘束ゼロ、虐待ゼロを継続するため、外部研修への参加、オンライン・園内研修を実施して身体的拘束等適正化のための指針に沿った行動に努める。 	<p>⑥ 尊厳保持・虐待防止・身体拘束防止の委員会及び日常のケアを通じて、身体拘束ゼロ、虐待ゼロを徹底するとともに、関係するオンライン外部研修及び園内教育研修を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者や家族等からのハラスメント相談窓口が東京都で新設されたことを安全衛生委員会を通じて職員に周知し、市主催のハラスメント対策研修を受講した。
<p>⑦ 建物、設備の維持管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全衛生委員会において、設備等の不具合について適宜確認し、必要に応じて修繕を行うとともに定期的に建物・設備の点検を実施する。 	<p>⑦ 安全衛生委員会及び日常業務を通じて、備品の整理整頓、建物・設備の点検を行うとともに、不具合等については適宜必要な修繕を実施した。また、業者による害虫駆除を実施した。</p>
<p>(2) 社会・利用者ニーズへの的確な対応</p>	
<p>① 個別サービス計画について、組織的な見直しを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設サービス計画に基づき、個別の24シートを作成し、利用者及び家族等の要望にあったサービス提供を行う。 ・提供しているサービスの評価を定期的に行い、サービスの質向上に努める。 	<p>① 介護保険に科学的介護情報システムが新設された関係から、この情報登録を行い、サービス計画書中の機能訓練部分の見直しを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者個別の24シートから、24時間を通じた行動や状態の特徴を把握してケアを行った。 ・計画、実施実行、点検評価、処置改善のPDCAサイクルでサービス提供を行った。

<p>② 利用者・家族等の意見、要望の把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者及び家族等に、ケアプラン会議へ出席していただき、利用者及び家族等の要望を把握する。 ・園長と利用者との定期的な懇談会を毎月2回フロア毎に開催し、利用者の意見を把握する。 ・定期的な懇談会の開催により、利用者及び家族等と園との緊密な意見交換を図る。 ・第三者評価受審時の利用者アンケート調査をもとに、意見や要望の把握に努める。 	<p>② 感染症対策関係から、ケアプラン会議への家族の出席は中止させて頂き、書面と電話で家族意向を確認してサービス計画を作成し、利用者・家族の同意を得るようにした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常のケア、園長のユニット巡回や喫茶懇談会などで利用者意見の把握に努めた。 <p>なお、利用者・家族の希望に沿って、2名の方が無事に退園され、在宅生活に移行された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第三者評価を受審して、サービス提供についての利用者聞き取り調査を行い、利用者の意見要望の把握に取り組んだ。
<p>③ サービス計画に基づくサービスの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別の24シートに基づき食事、入浴、排せつ等のケアを実施する。 ・個別の機能訓練計画を作成し、日常生活動作の維持改善を図る。 ・選択食や季節感を取り入れた行事食等きめ細かな食事サービスを実施する。 	<p>③ 個別の24シートに基づき食事、入浴、排せつ等のケアを実施し、ユニット会議でケア方法を点検して改善を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機能訓練指導員とユニット職員が連携して日常生活動作の維持改善に取り組んだ。 ・日頃より旬の食材を使い、季節を感じて頂けるような献立で食事サービスを実施した。
<p>④ 各種行事等の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症防止対策を徹底して各種行事等を実施する。 ・利用者の要望をもとに、職員が計画立案するユニット活動やフロア合同での交流行事を実施する。 ・書道、カラオケ、手工芸、風船バレー、将棋、囲碁クラブ等のクラブ活動等を各部署協力して実施する。 ・オープンスペースを活用して、家族や地域の方の演奏披露、作品展示などの地域交流を図る。 	<p>④ 感染症対策関係から、お花見会と夏祭りを中止し、敬老会は家族や来賓の参加を中止して、敬老の集いという形で開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・敬老の集いでは、理事長より95歳以上の20名の利用者一人ひとりにお花の授与と記念撮影を行うとともに、利用者全員の記念写真を家族にお送りした。また、後援会から利用者への記念品贈呈を頂いた。 ・感染症対策関係から、ボランティア参加によるクラブ活動や地域交流を中止したが、利用者の誕生会や余暇活動を充実させて、利用者喜んで頂けるように努めた。
<p>(3) 事業の安定的な運営</p>	
<p>① 経営感覚の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幹部会にて毎月の収支を明らかにし、目標に対する進捗状況や経営状態を各職員が理解・把握する。 ・省エネ・節電、節水等により、経費の節約に努める。 	<p>① 幹部会や連絡会において収支目標に係る進捗状況や経営状態について確認を行い、職員周知を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水道及びガスの使用量節減のため節水装置を取付けており、経費の節約に努めた。
<p>② 業務の簡素化・効率化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各部署で業務の効率化を積極的に検討し取り入れていく。 ・利用者管理システムや施設内LANを活用する事により、業務の効率化と簡素化を図る。 ・腰装着型介護ロボットの活用により、利用者の重度化対応及び介護職員の負担軽減を図る。 	<p>② 業務委員会やユニットケア推進委員会などを通じて、ユニットの特徴を活かしたケアの推進や業務効率化に取り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設内LANを活用して、ユニット内や各部署内のパソコンで情報を共有し、研修動画を数回に分けて視聴できるようにして、場所移動時間の節約と業務時間の有効利用につなげた。 ・利用者の重度化対応及び介護職員の負担軽減を図って、腰装着型介護ロボットを備えた。
<p>③ 入居を計画的に安全に進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・居宅介護支援事業所や老人保健施設、サービス付高齢者住宅へのアプローチを行うなど、入居ニーズ取り込みの機会を増やす。 	<p>③ 入所前の家族説明では、重要事項の説明に加えて、看取り関係の説明も行き、利用者・家族の安心に資するようにした。</p> <p>退所に伴う空床が発生次第、速やかに待機者と連絡を取り、入所の受入れを行った。</p>

(4) 職員の知識・技術の向上と職場の活性化	
<p>① 知識・技術の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続きユニットケア推進委員会及び排泄委員会で職員のケア能力向上を図る。 ・マニュアル等の見直しなど業務改善を行う。 ・施設外・オンライン研修に積極的に参加し、その成果を活用する。 ・資格要件・加算等に必要な各種資格を取得する際の支援体制の充実を図る。 	<p>① 業務委員会やユニットケア推進委員会などを通じて、職員のケア能力の向上と、マニュアル等の見直しなどによる業務改善に取り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンライン研修を希望者全員、経験1～3年、専門分野、副主任以上、課長代理以上等に分けて実施し、また、園内教育研修を毎月実施した。 ・ユニット施設管理者研修修了1名、安全対策責任者研修修了1名、認知症介護基礎研修修了1名、たん吸引等実地研修修了1名、社会福祉士取得1名、介護福祉士試験合格1名であった。
<p>② 職員の確保・定着</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己申告書を活用したキャリアパスの構築を行い、職員の確保・定着を図ることを目的に職員一人ひとりが「やる気と誇り」を持って働くことが出来る職場づくりに努める。 ・会議や業務の見直しを通じて年休取得率向上や職員の業務軽減に努める。 ・新型コロナウイルス感染症防止対策により研修実施方法が増えた、オンライン形式の研修に対応した受講環境を整備する。 	<p>② 職員の異動資格希望等に係る自己申告、目標管理、人事考課などによるキャリアパスを実施し、必要な資格研修受講費用の支給、資格取得時の祝金などを実施した。これらにより、職員が「やる気と誇り」を持って働くことが出来る職場づくりに努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議や委員会、研修などを効率的に実施し、年休取得率向上と職員の業務軽減に資するように努めた。また、安全衛生委員会便りを発行して、労働安全、衛生、健康に関する情報を周知した。 ・オンライン研修の開催が増えており、これを有効に利用できるように受講環境を整備した。
(5) 地域、後援会との連携	
<p>① 地域等連携事業の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本部と連携を図り、五町会との懇談会(6月11日(金))に参加し、地域との合同防災訓練(10月22日(金))を実施する。 ・夏祭り、チャリティバザー等行事の実施に際しては、法人内の施設、地域及び後援会との連携やボランティアの積極的な受け入れにより実施する。 ・青陽園及び地域包括支援センター川口と連携し「認知症カフェさくら」、「介護予防健康体操教室」の開催は、地域での新型コロナウイルス感染症発生等の実情を踏まえ検討する。 	<p>① 感染症対策関係から、法人主催の五町会との懇談会、地域との合同防災訓練、夏祭り、チャリティバザーを中止し、合わせてボランティアの受け入れを中止した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・後援会との連携では、敬老の集いの中で、後援会から利用者への記念品贈呈を頂いた。 ・青陽園及び地域包括支援センター川口と連携しての「認知症カフェさくら」と「介護予防健康体操教室」は、感染症対策関係から中止した。 ・園のホームページに利用者活動の様子を掲載して、後援会や地域の方達に園の様子を知って貰えるように努めた。
<p>② 高齢者関係機関との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京都、八王子市との情報交換等を積極的に行う。 ・東京都社会福祉協議会、八王子市社会福祉協議会等との連携を図る。 ・東社協高齢者施設福祉部会、八王子施設長会に参加し、他施設との情報交換を行う。 	<p>② 東京都の経営支援補助とPCR検査補助、八王子市の短期入所者PCR検査補助を受けて、PCR検査を実施した。また、市ホームページ「八王子ケア倶楽部」から事業関係情報を収集した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京都社会福祉協議会及び八王子市社会福祉協議会の会員施設として情報提供を受け、同会の高齢者施設福祉部会依頼のアンケート調査に協力した。 ・八王子施設長会では、今年度からオンラインによる会議が開始された。同会では4月に市の担当者出席による感染症関係の情報交換が行われ、6月と3月に総会が開催された。